



三島 日本大学

同窓会々報

第 23 号

平成 4 年 11 月 1 日
静岡県三島市文教町 2
日本大学三島同窓会発行

平成四年度

常任幹事会・幹事会開催

◎常任幹事会

平成四年六月十一日(木)十八時から、三島市内の田代パレスにおいて開催され、幹事会、総会開催の件、会報発行の件、その他、箱根駅伝等の応援用の横断幕(三島同窓会名入り)の作成の件、同窓会長退任に伴う記念品等の事項について審議された。

◎幹事会

平成四年七月三日(金)十八時三十分から、母校八号館二階において開催された。

会は久保田勝氏の司会で進められ、宮沢主計会長の挨拶の後、議長団、書記が選出され、議長に山崎光義氏、副議長に染谷徳昭氏、書記に関野幹雄氏、野田正人氏を選出し、次の事項が審議された。

議 事

- 一、平成三年度事業報告
- 一、平成三年度決算報告
- 一、監査報告
- 一、平成四年度事業計画案
- 一、平成四年度予算案
- 一、開設五十周年記念に係わる事業について
- 一、各科活動状況報告
- 一、その他

事業報告、事業計画案は佐野勝己事務局長から、決算・予算案は土屋忠得会計担当常任幹事から説明、続いて監査報告を持田光雄会計監査からそれぞれ説明された。

次に開設五十周年記念に係わる事業について、準備委員長西村美枝子顧問の代わりに見上勇逸顧問から説明があり具体的な内容については学校側と相談しているとの旨の報告があった。各科活動状況は何もなく、その他について、箱根駅伝等の応援に使用する横断幕(三島同窓会名入り)作成の件、同窓会長退任に伴う記念品の件は、会長、事務局等にまかせるとの意見一致を見て終会した。

幹事会に続いて懇親会が同会場にて盛大に行われ、十一月一日(日)(例年は三日)四時の総会に結集するとのお互いの意志をかため散会した。



ご挨拶

国際関係学部 部長 村田 博司



秋も深まり、校庭の銀杏も黄金色に輝きはじめたこのごろ、同窓会のみなさまにはお変わりなくお過ごしのことと存じます。日頃三島キャンパスの教育・研究につきましてご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

この一年の間に地方の校友会に出席する機会が幾度かありましたが、決まっておつて三島予科、三島教養部あるいは文理学部（三島）に在籍し、

青春の数年を三島で過ごされた方々が懐かしそうに声をかけてくださり、昔の思い出話に花を咲かせ、今度三島を通るときはきっと寄ります、とおっしゃるのが常でした。世代を異にし、出身地を異にし、その後の人生を異にする卒業生の方々との出合を通じて、改めて三島キャンパスの現在を担う私ども教職員の責任を痛感しました。

現在、大学院、学部、短大、高等学校を合わせて、専任教職員数三十三名、学生・生徒数六、六八七名にのぼる一大総合学園となりましたが、古きよきものを保存しつつ、さらなる発展を目指して一層の努力を重ねてまいる所存ですので、今後とも変わらぬご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

ふと思うこと

三島同窓会副会長 渡辺 勝一

私達の教養部時代は、三島で二年（工学部は一年）学んだあと、それぞれの学部に移行していく制度でした。第四期だった私達が移行したのは昭和二十八年（一九五三年、工学部は一九五二年）だったので、もう四十年経ってしまったことになる。だが、頭をよぎることはつい昨日のいきごとであり、とても四十年の年月は感じられない。

ところが現実に三島学園を訪れてみると、まず感ずることは往時の木造校舎がなくなつて現代的な校舎に置き代つていて、学園の内容も予科、教養部、文理学部、国際関係学部へと大きく発展しているし、私達の時代にはなかった高等学校が、静岡県東部では押しも押されぬ有名校に成長していることなど時代は変わっている。

また、先生方を尋ねてみても、往時からの先生で在室されるのは青木先生位のもので、玉津先生、安藤先生など多くの先生方がすでに故人となられており淋しい限りであるが、幸い現在もお元気な先生方のうち、大学の副総長・文理学部長を歴任された沼尻先生、副総長・国際関係学部長をなさり、現在も副総長の大任を果されておられる蔵並先生、ますますお元気

で本部の体育局長の要職にある大橋先生や、地元沼津に在住される浅野先生には行事等のあるごとにお目にかかる機会もあり、なつかしい限りであつて、先生方のいつまでもご壮健であられることを祈っている。

三島学園のなかには私達の憩いの場であつた希望の森、思索の森などが残り、裏のグラウンドから見ると富士山も大きなビル等にさえぎられることもなく現在も往時の姿を見せてくれていることはなつかしく、まして往時に教養部長の秋葉先生、管財担当の鈴木昇六先生がおられ、庶務・会計の事務所や会議室のあつた本部事務棟が、学園のご厚意により記念館として今もなお移設保存されていることは誠にうれしいことである。

ところで、私達四期生は毎年大祭の時に伊豆に一泊することを長い間続けていた。在学中は何百人もいた同期生も、定年適令期の今になると連絡がとれて案内を出せる数も減り、集る数も多い時で三十人位、最近では十数人になつてしまつてゐる。でも折にふれ沼尻先生、蔵並先生、大橋先生、浅野先生をはじめ現に三島学園におられる先生にもご出席をお願い

して、いつも盛大に懐旧の念にひたつてゐる。

思えば私達の年代は戦後のきびしい時代に青年期を過し、職場では滅死報公的な勤務をし、夢中で生きてきてふと気がついたら定年になつてゐた、なんていう時代を生きてきた。そんな私達（現役の経営者、定年後の第二の人生を生きる者、年金生活者等々）が、少なくとも年に一度会おうとして会っているのだが、毎年会っている者は分つても「おい、あのオヂイサンみたいな彼は誰だった？」「失礼ですが名刺を一枚」なんて光景は毎度のことである。

今年も十一月二日に長岡で先生方お三人のご列席を願つて楽しい一夜を過す予定である。思えば三島でたつた二年（或は一年）一緒に学んだ縁が今日まで我々の貴重な友情として続いているのであり、ある意味ではお互いの人生を支える基盤となつてゐることを強く認識する次第である。

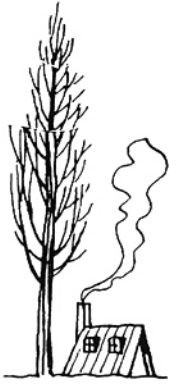
私自身、大学を卒業してから縁あつて私立大学に三十余年勤務し、学生対策や労務対策等の私学経営に直接関与し、文部省申請業務等のむづかしさを身をもって経験してきたことから、我が日本大学三島学園に思いをはせれば、予科時代・教養部時代の開拓時代に今日の基礎をきずかれた秋葉先生、鈴木昇六先生、安藤先生、玉津先生等創生期の先生方のご施策とご苦労は察して余りあるものであると思うし、万福の敬意を表するもの

である。また国際関係学部申請の時は、「国際」と名付けるのはわが国初のことであったので文部省の審査は極めてむづかしく、担当なされた高梨先生や蔵並先生をはじめとする諸先生のご苦勞の程はさぞかしであったと思う。この時も開拓者精神の尊さをひそかに教えられたものでした。

今後の私立大学は、十八才人口の急減やら大学の特色化傾向の増大など課せられた問題は非常に多いが、私学の雄であるわが母校はその心配はないと思う。がしかし今は、教職員、学生、卒業生が一丸となって学園の発展向上のためあらゆる叡知を結集すべき時であると思っている。

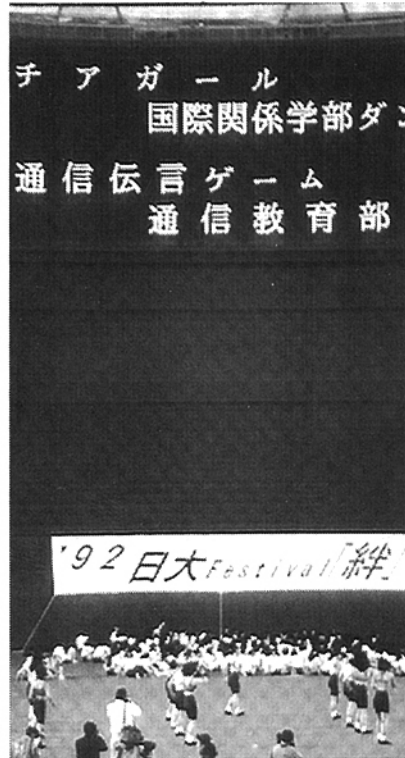
こうした折に、わが同窓会は如何にあるべきかを改めて問われるのだと思う。私はあえて「同窓会は卒業生各自の想い出のよりどころであり、お互いの消息を確かめ合える機関であって、その集いが恩をうけた母校の発展のため少しでも協力と努力をしていこう。」という善意の新陸団体に他ならないと思っており、益々の盛会を願っているものである。

(昭和26・27、経済学部在学)



日大フェスティバル開かれる

十月六日(火)東京ドームにて、第三回日大フェスティバルが開催された。本学部からは、多数の学生、教職員が参加し学部パフォーマンスにダンス部が、フィナーレのエンディングパフォーマンスには学生会代表学生がそれぞれ出場し、広いアリーナで国際関係学部を十分紹介した。



学部祭のご案内

第42回学部祭は、「地球に優しい文化祭」をテーマに、後輩諸君が張り切っております。今年の学部祭実行委員は、総勢一六三名、委員長は国際関係学部三年沼尻正則君を核につくりあげた成果は、昨日のスポーツ大会から三日間にわたって行われております。

記

十月三十一日(土)

開会式 スポーツ大会

九時 三島市内

初日祭

十時三十分より十一時 三島市内

市中パレード

九時三十分より十一時 三島市内

展示・発表

九時十七時十五分四・八・十三号館

郷土名産展・バザー・模擬店

九時十六時三十分 時計台・八号館・前庭

ステージイベント

十一時十三時 野外ステージ

口演

デーブスペクター氏によるトークショー

十三時十四時 八号館三F

討論会

十一時十六時 二二三七教室

親善試合

バスケットボール部対東海大学

十時十三時 大講堂

サッカー部対東海大学

十三時十五時 グラウンド

発表

ダンス部演技

十時三十分より十一時三十分大講堂前

スキー部

十時十六時 十三号館前通路

十一月二日(月)

一般公開

展示・発表

九時十六時 四・八・十三号館

郷土名産展・バザー・模擬店
九時十六時三十分 時計台・八号館・前庭
ステージイベント 野外ステージ
十二時十四時

講演会
エイズ予防財団沢崎康先生
十三時十四時三十分二三四七教室

演武会
剣道部
十一時十三時 大講堂

親善試合
日本学芸部対東海大学
十一時十三時 大講堂前

アメリカンフットボール部対東海大学
三時十五時 グラウンド

バレーボール部男子対東海大学男子(対東海大学)
十三時十六時 大講堂

バレーボール部女子(対東海大学短期大学)
十三時十六時 大講堂

発表
ダンス部演技
十三時十四時 大講堂前

スキー部
十時十六時 十三号館前通路

十一月三日(火)

一般公開

展示・発表

九時十六時三十分四・八・十三号館

模擬店

九時十六時 前庭

ステージイベント

十一時十五時 野外ステージ

口演

生島ヒロシ氏による生トーク

十三時十四時 八号館三F

献血

九時三十分より十五時三十分大講堂前

演武会

少林寺拳法部

十時三十分より十二時三十分 大講堂

空手部

十四時十七時 大講堂

親善試合

アメリカンフットボール部(対O.B.)

十三時十五時 グラウンド

ボクシング部

十三時十六時 第五体育館

発表

スキー部

十時十六時 十三号館前通路

後夜祭

十七時三十分より十九時野外ステージ

幹事	関本 文彦	(27・28)	幹事	高藤 省三	(49)	幹事	宮下 正俊	(39・40)
幹事	真部 喜孝	(27・28)	幹事	河田 敏明	(50)	幹事	瀬村 隆治	(42・43)
幹事	結城 勇一	(27・28)	幹事	滝本 博	(53)	幹事	吉田 力	(44・45)
幹事	土屋 仁	(27・28)				幹事	長倉 良幸	(44・45)
幹事	丸山富美雄	(28)				幹事	前山 良光	(45・46)
幹事	小椋 貞夫	(28・29)	幹事	岩崎 尚枝	(41・42)	幹事	早川 清文	(45・46)
幹事	坂詰 正衛	(28・29)	幹事	(伊藤) 小永井京子	(43・44)	幹事	菅野 利幸	(45・46)
幹事	望月 知林	(28・29)	幹事	平岩美知子	(44・45)	幹事	三枝 和彦	(46・47)
幹事	安東 安生	(29・30)	幹事	(金子) 高橋真理子	(44・45)	幹事	天野 寿一	(48・49)
幹事	田嶋 文義	(29・30)	幹事	(大場) 加藤 和代	(46・47)	幹事	埜村 光伸	(53・54)
幹事	寺崎 哲郎	(29・30)	幹事	(牧野) 石井千枝子	(46・47)			
幹事	関 哲男	(29・30)	幹事	古川 幾代	(56・57)	幹事	岩月 和男	(40・41)
幹事	林田 達郎	(29・30)	幹事	佐野 裕子	(58・59)	幹事	中山 義昭	(41・42)
幹事	(中村) 森 伸夫	(30・31)	幹事	下山 恵子	(58・59)	幹事	渡辺 清	(42・43)
幹事	道見 俊廣	(30・31)	幹事	鍵山 美希	(59・60)	幹事	赤地 哲也	(42・43)
幹事	小野 武	(30・31)	幹事	(清水) 辻井 哉子	(60・61)	幹事	深井 富雄	(45・46)
幹事	杉山 茂	(30・31)	幹事	沓間 恭子	(60・61)	幹事	河田 哲雄	(46・47)
幹事	根岸 元宏	(31・32)	幹事	佐藤 明美	(61・62)	幹事	西家 勝彦	(51・52)
幹事	加藤 三洲	(31・32)	幹事	鈴木三奈子	(62・63)	幹事	勝呂 千明	(52・53)
幹事	渡部 浩司	(31・32)						
幹事	大村日出雄	(32)	幹事	荒木とよ子	(39・40)	幹事	今関 邦彦	(26・27)
幹事	甲田 知由	(33)	幹事	(飯村) 萩野谷 肇	(41・42)	幹事	加藤 晴俊	(30・31)
幹事	杉本 直志	(33)	幹事	上田 定義	(41・42)	幹事	加藤 博昭	(48・49)
幹事	市橋 悟	(34)	幹事	加藤 久貴	(46・47)	幹事	津田 正克	(50・51)
幹事	朴沢 英憲	(34・35)	幹事	秋山 稔明	(46・47)	幹事	後藤 善夫	(52・53)
幹事	吉野 洋一	(35)	幹事	前田 正文	(47・48)	幹事	西島みゆき	(52・53)
幹事	横田 晋朗	(35)	幹事	藤本 哲生	(47・48)		(今井)	
幹事	鈴木 肇	(35)	幹事	野田 栄	(47・48)	幹事	遠藤日出夫	(37)
幹事	御供 政紀	(35・36)	幹事	棚橋 敏彦	(50・51)	幹事	渡辺 博夫	(37)
幹事	小沢 文郎	(36)	幹事	小松真由美	(51・52)	幹事	江川 洋	(42)
幹事	大西 良雄	(37)	幹事	矢崎 真治	(53・54)	幹事	藤幡 俊量	(46)
幹事	小川 武司	(37)						
幹事	多田清太郎	(37)	幹事	松嶋 絹江	(54・55)	幹事	松原 裕二	(54～57)
幹事	坂口 正剛	(37)	幹事	大石多佳子	(57・58)	幹事	井上 晶子	(54～57)
幹事	小石川宣照	(37)	幹事	渡辺 桂子	(60・61)	幹事	(賛川) 山本 ゆか	(58～61)
幹事	谷崎 邦昭	(38)	幹事	片村 則子	(61・62)	幹事	後藤 幸江	(58～61)
幹事	栗山 康雄	(39)	幹事	日吉みちよ	(61・62)			
幹事	両角 勇	(42)	幹事	角田 由美	(62・63)			
幹事	濱田 義之	(45)	幹事	林 尚美	(62・63)			

平成4年度役員

(平成3.11.3改選)

顧問	西村 満男	(21～23)	常任幹事	榎本 睦美	(45・46)	幹事	長谷川駿一	(23～25)
顧問	西村美枝子	(22～24)	常任幹事	西野 和衛	(46・47)	幹事	徳増 清二	(23～25)
顧問	中嶋 信行	(23～25)	常任幹事	江本 博勝	(46・47)	幹事	石野 進	(23～25)
顧問	奥田 吉郎	(23～25)	常任幹事	宮川 守	(47・48)	幹事	石垣 恭弘	(23～25)
顧問	見上 勇逸	(27・28)	常任幹事	沼上 博美	(48・49)	幹事	井上 忠彦	(23～25)
			常任幹事	関野 幹雄	(48・49)	幹事	細田 昭次	(23～25)
会長	宮沢 主計	(25・26)	常任幹事	大島 裕二	(52・53)	幹事	杉山 吉房	(23～25)
副会長	渡辺 勝一	(26・27)	常任幹事	斎藤 聡	(54～57)	幹事	深沢 昭八	(23～25)
副会長	鈴木 邦良	(27・28)	常任幹事	小澤里佳子	(57・58)	幹事	服部 房夫	(23～25)
副会長	平井 千枝	(34・35)	常任幹事	野田 正人	(62・63)	幹事	芦澤 克治	(24～25)
副会長	高田 菊平	(36)	会計監査	持田 光雄	(31・32)	幹事	石川 進	(25・26)
副会長	山田 浩子	(41・42)	会計監査	中島 敏男	(30・31)	幹事	矢沢 知秋	(25・26)
副会長	岩崎 一雄	(43・44)				幹事	長倉 祐作	(25・26)
副会長	宮下 公雄	(54～57)				幹事	宮崎 茂樹	(25・26)
事務局長	佐野 勝己	(39・40)	幹事	高田日出太郎	(21)	幹事	伊藤 悟	(25・26)
常任幹事 (庶務担当)	久保田 勝	(38・39)	幹事	馬場 康夫	(21・22)	幹事	辻 省二	(26・27)
常任幹事 (庶務担当)	佐野 勝己	(39・40)	幹事	中野 繁	(21～23)	幹事	田村 実	(26・27)
常任幹事 (庶務担当)	田中 由雄	(42・43)	幹事	石垣 義親	(21～23)	幹事	浅原 好胤	(26・27)
常任幹事 (会計担当)	土屋 忠得	(40・41)	幹事	小野 真一	(21～23)	幹事	宮崎 乾朗	(26・27)
常任幹事	木村 幸夫	(23～25)	幹事	米内 国夫	(21～23)	幹事	高橋 英明	(26・27)
常任幹事	白鳥 義仁	(25・26)	幹事	澤 直和	(21～23)	幹事	荒川 通	(26・27)
常任幹事	大井 徹也	(26・27)	幹事	滝川 昇	(22・23)	幹事	岩永 勉	(26・27)
常任幹事	鈴木 義樹	(28・29)	幹事	中浜 卓弥	(22～24)	幹事	塩田 浩	(26・27)
常任幹事	角田 義廣	(30・31)	幹事	中塩 利雄	(22～24)	幹事	村野 静司	(26・27)
常任幹事	市川 紀子	(37・38)	幹事	北條 晃	(22～24)	幹事	光信 儔	(26・27)
常任幹事	小出 博	(40・41)	幹事	長田 渉	(22～24)	幹事	稲葉 昭	(26・27)
常任幹事	柴田 正	(41・42)	幹事	山内 茂	(22～24)	幹事	吉田 昭二	(26・27)
常任幹事	土屋 貞明	(42・43)	幹事	川口 正信	(22～24)	幹事	熊崎 文二	(26・27)
常任幹事	小早川隆義	(42・43)	幹事	小林 昭雄	(22～24)	幹事	興水 啓一	(26・27)
常任幹事	染谷 徳昭	(42・43)	幹事	金田 豊	(23～25)	幹事	廣田 均	(26・27)
常任幹事	渡辺 忠昭	(42・43)	幹事	松本 秀雄	(23～25)	幹事	栗原 恒夫	(26・27)
常任幹事	林田 孝二	(43)	幹事	小林 栄三	(23～25)	幹事	黒滝 祐司	(27・28)
常任幹事	山口 良児	(43・44)	幹事	勝俣 敞充	(23～25)	幹事	小林 義尚	(27・28)
常任幹事	相田 信次	(44・45)	幹事	山本 康弘	(23～25)	幹事	佐藤 力男	(27・28)
常任幹事	鈴木 正八	(44・45)	幹事	森下 菊美	(23～25)	幹事	田村 栄一	(27・28)
常任幹事	山崎 光義	(44・45)	幹事	宝地 克哉	(23～25)	幹事	鈴木 稔	(27・28)
常任幹事	久保田博明	(45・46)	幹事	播本 弘	(23～25)	幹事	上野 実	(27・28)

平成3年度 事業報告

1 三島同窓会長賞授与

平成3年度日本大学三島キャンパス在学生から、次の者が推薦された。同窓会長賞（副賞記念品）は、短期大学部3名に贈られ、平成4年3月25日の卒業式当日（日本武道館）、授与式が行われ、同窓会長賞（副賞奨学金）は、国際関係学部2名に贈られ、4月9日の開講式当日授与式が行われた。

同窓会長賞（副賞記念品） 3名 高野敦子（国文専攻） 菅江 稔（商経学科二部） 佐野真理子（食物栄養専攻）

同窓会長賞（副賞奨学金） 2名 沼尻正則（国際関係学科） 長谷川哲雄（国際関係学科）

1 会報発行

会報22号、平成3年11月3日付 10頁 3,000部を発行した。

1 各科同窓会等補助

(1) 大学体育団体育成を目的に、200,000円を補助した。

1 常任幹事会

平成3年6月28日(金)17時から、国際関係学部8号館2階で開催した。

1 幹事会

平成3年6月28日(金)18時から、国際関係学部8号館2階で開催した。

1 総会並びに懇親会

平成3年11月3日(日)16時から、総会並びに懇親会を国際関係学部記念館で開催した。

平成3年度 収支決算書

(平成3年4月1日～平成4年3月31日)

単位：円

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	予 算 額	決 算 額	差 異	項 目	予 算 額	決 算 額	差 異
奨 学 費	190,000	167,310	22,690	会 費 収 入	4,260,000	4,260,000	0
学 園 歌 集 発 行 費	270,000	266,358	3,642	雑 収 入	859,498	1,599,474	△739,976
同 窓 会 報 発 行 費	250,000	149,350	100,650	前 受 金 収 入	2,700,000	2,790,000	△90,000
各 科 同 窓 会 等 補 助	620,000	290,000	330,000				
総 会 並 び に 懇 親 会 費	450,000	328,200	121,800				
会 議 会 合 費	300,000	260,065	39,935	計	7,819,498	8,649,474	△829,976
通 信 運 搬 費	50,000	18,737	31,263				
事 務 費	120,000	65,030	54,970	基 金 繰 出 額	0	0	0
雑 費	300,000	25,000	275,000	前 年 度 繰 越 金	30,502	30,502	0
予 備 費	800,000	0	800,000				
計	3,350,000	1,570,050	1,779,950	合 計	7,850,000	8,679,976	△829,976
基 金 繰 入 額	1,800,000	4,300,000	△2,500,000				
次 年 度 繰 越 金	2,700,000	2,809,926	△109,926				
前 受 金	2,700,000	2,790,000	△90,000				
繰 越 金	0	19,926	△19,926				
合 計	7,850,000	8,679,976	△829,976				

貸 借 対 照 表

(平成4年3月31日現在)

単位：円

借 方			貸 方		
項 目	金 額		項 目	金 額	
普 通 預 金	809,926		基 金	23,500,000	
通 知 預 金	0		前 年 度 繰 越 額	19,200,000	
定 期 預 金	25,500,000		本 年 度 繰 入 額	4,300,000	
			次 年 度 繰 越 金	2,809,926	
			前 受 金	2,790,000	
			繰 越 金	19,926	
合 計	26,309,926		合 計	26,309,926	

基 金 の 内 訳

単位：円

項 目	前 年 度 繰 越 額	本 年 度 繰 入 額	合 計
同 窓 会 事 業 基 金	19,200,000	1,000,000	20,200,000
国 際 関 係 学 部 校 友 会 加 盟 基 金	0	3,300,000	3,300,000
計	19,200,000	4,300,000	23,500,000

平成3年度収支について、関係帳簿並びに証拠書類を精査いたしました。記帳その他正確であることを認めます。

平成4年7月3日

会計監査 持 田 光 雄 (印)

同 中 島 敏 男 (印)

平成4年度 事業計画 (案)

- 1 三島同窓会長賞授与 (副賞：記念品もしくは奨学金)
日本大学国際関係学部および短期大学部を平成5年3月に卒業・4月に進級の予定の者を対象とする。
国際関係学部 各学科3・4年生 各1名宛 賞状及び奨学金
短期大学部 各学科2年生 各1名宛 賞状及び記念品もしくは奨学金
- 1 学園歌集発行予定
3,000部を発行し、平成4年4月と5年4月国際関係学部・短期大学部各学科および新入生全員に対し、入学祝いとして渡す。
- 1 会報発行予定
会報23号 (平成4年11月) 発行 10頁 3,000部
- 1 各科同窓会等補助
(1)各科の名簿編集の推進。
(2)大学体育団体に対する補助。
- 1 三島開設50周年記念に係わる事業について
- 1 常任幹事会
平成4年6月11日(木)18時から、田代パレス(市内)において開催する。
- 1 幹事会
平成4年7月3日(金)18時30分から、国際関係学部8号館2階において開催する。
- 1 総会並びに懇親会
平成4年11月1日(日)16時から、国際関係学部記念館において開催する。

平成4年度 収支予算書 (案)

(平成4年4月1日～平成5年3月31日)

単位：円

支 出 の 部				収 入 の 部			
項 目	本年度予算額	前年度予算額	増減 (△)	項 目	本年度予算額	前年度予算額	増減 (△)
奨 学 費	240,000	190,000	50,000	会 費 収 入	4,218,000	4,260,000	△42,000
学 園 歌 集 発 行 費	280,000	270,000	10,000	雑 収 入	852,074	859,498	△7,424
同 窓 会 報 発 行 費	180,000	250,000	△70,000	前 受 金 収 入	2,700,000	2,700,000	0
各 科 同 窓 会 等 補 助	320,000	620,000	△300,000				
総会並びに懇親会費	400,000	450,000	△50,000				
会 議 会 合 費	300,000	300,000	0				
通 信 運 搬 費	50,000	50,000	0				
事 務 費	120,000	120,000	0				
雑 費	200,000	300,000	△100,000				
予 備 費	800,000	800,000	0				
計	2,890,000	3,350,000	△460,000	計	7,770,074	7,819,498	△49,424
基 金 繰 入 額	2,200,000	1,800,000	400,000	基 金 繰 出 額	0	0	0
次 年 度 繰 越 金	2,700,000	2,700,000	0	前 年 度 繰 越 金	19,926	30,502	△10,576
前 受 金	2,700,000	2,700,000	0				
繰 越 金	0	0	0				
合 計	7,790,000	7,850,000	△60,000	合 計	7,790,000	7,850,000	△60,000

箱根駅伝応援行

山口良児

平成三年十二月初旬、沼津市内の校友三十余名が集った忘年会の席上で、箱根駅伝で走る母校の選手を応援に行こうという話がもちあがった。

なにしろ全員が日大OBで、しかも酔ってふざけている連中ばかりであるから、思ったとおりその後何日経っても、誰からも何とも言わず、諦めきれない思いで店舗を新築したばかりの、芹沢忠久君の店へ遊びがてら行き、誰もやってくれないのなら、俺たち二人が幹事役になってメンバーを集めようと相談し、彼も快諾してくれたのがクリスマスイヴのことであつた。

まず三島同窓会の副会長である鈴木邦良先輩に電話で参加を要請し、併せて運転手付きのマイクロバスの手配をお願いして、その後は電話とファックスを駆使し、参加しそうな諸氏の許へ次つぎと連絡をとり、宮田泰則君、東宏君夫妻（夫人は芸術学部卒）、鈴木克巳君、岩崎一雄氏、服部傳氏、細田照次先輩などの参加が確認でき、三島からも木村先輩をはじめ宝地、宮野氏等を加え十六名のメンバーが揃った。これに岩崎英一君の息子や東宏君の子供たち、それに日大理工へ入学が決まっていた芹沢

君の息子さんなどが加わって、結構な人数になってきたところで平成三年は暮れていった。

明けて平成四年正月三日払暁、駅南集合場所は鈴木邦良先輩の会社で責任者芹沢君。沼津駅北口駿河銀行まえが第二集合場所。責任者は私。駅南から乗り込んだ連中は既にビールを飲み始めており、気勢は嫌でも上っていた。

途中三島で木村先輩はじめ三名の校友が乗車し、山中城址を過ぎるあたりですばらしい日の出を拝することもでき、全員で大歓声をあげた。

一番さわぐのが獣医の宮田泰則君で、前夜遅くまで私の家の新年会で大酒を飲んだのに、乗車するや否やビールを飲み大さわぎで、一人で十人分ぐらいは騒いでいた。想えば今回の応援行は苦勞の連続だったなあと、脳裏を去来する私に向かって、細田先輩とまるで漫才コンビの如く駄ジャレを連発しながらも、午前七時までに現地へ到着した。

暮のうちに肥田事務局長宅へ参上してお借りしておいた校友会旗を、宮田君宅から持ち出したものはし竿に取りつけて旗びらきが行われ、それを振りながら、既に各大学の選手や役員・太

集まっているスタート地点に行き、氣勢をあげながら記念撮影をした。奇異の目で見られたが全員平気であつた。

前日も応援に来たという鈴木克巳君が良い場所を見つけてくれてあり、全員で移動。途中、旗振り役の宮田君が高い場所にセットされたテレビのカメラマンに向かって、「必ずうつして下さいよーっ」と例の大声で頼んだが全く無視されてしまった。

スタート地点から二百米ほどの近い場所まで、ここは応援に格好の場所と話していると、右手から法政大学応援団が登場。ブラスバンドの連中が恨めしそうにこちらを見ているので、邪魔なのだろうと左側に少々移動した。ブラスバンドの女子学生に声を掛けて何とか親しくなろうとしたのが宮田君と芹沢君で、手の早いことでは一、二を争うふたりである。

左側に早稲田大学応援団登場。道路反対側に立っていた皮コートに絹の白マフラーというスマートなOBらしき男が、即席応援団のわれわれの方へゆっくり歩み寄ってきた。鈴木邦良先輩がそれを見て私につぶやく。「山口君、奴は我われに苦情を申し出るつもりだ。来たらずっちまうからいいな」と。

私はつい、明日の新聞の社会面に載る記事を想った。早稲田は正規の本部応援団だから、こちらが邪魔なのであろう。だが、近くまで寄っては来たものの、鈴木先輩の眼光に怖れをな

したのかどうか自校の旗手と話し始め、やがて去って行った。やれやれ良かったと思っていると、スクールカラーの小さな旗とはいえ母校日大の旗を見つけてOBやOGたちが集まりはじめ、「日大の応援団はどうしたんですか。一緒に応援させてください」と、三々五々寄ってくるではないか。

「お、良いですとも。共に応援いたしましょう」と、百万の味方を得た気分であっていると木村先輩が、「毎年箱根駅伝に出場している伝統あるわが日本大学に、本部応援団が無いなどはけしからん」と憤っておられた。

そのうちに鈴木邦良先輩が居ないと誰か言い、どこへ行かれたのかと心配していると、缶ビール片手に戻って来られて、「テレビ中継のスタッフに、局の重役の名前を出して、こゝを重点的に撮る様に

言ってきたよ」とのこと。何という顔の利く方だろうと皆で感心した。

午前八時、花火の音を合図にレース開始。一番手山梨学院大の走者が来た。敵ながら頑張れと応援。二番手早稲田にも声援し、ついに母校日大の走者が三番手で来た。開始まえに木村先輩から、旗を下げていれば走者はこれに触れてゆくものだとお聞きしていたので、旗手の宮田君が四十五度に下げていた処、その通り選手は触れて行った。この模様はしっかりとテレビで中継され、ビデオに撮った。

全、十五大学の選手たちが無事出発したのを見送り、即席応援団も再び応援するためにバスで小田原へ先行した。有料道路を下りながら幹事役の私と芹沢君もビールを飲みはじめ、小田原に着く頃には良い気持ちになってきた。



「鈴木商店」というみやげ物店の駐車場にバスを駐車して全員で買物。酒のつまみも追加した。

皆で大騒ぎしているうちに先導車・パトカーなど通過して、一位の山梨学院大が来た。暫くすると何とわが日大の選手が二位で来るではないか。「ヤッター。頑張れ日大大学ウ。死ぬ気で走れ！」

必死の選手に向かってみんな勝手なことを叫んで応援。三位以下には「適当に走れーっ」などと応援。鈴木商店の人たちまで巻き込んでの大声援をしたものである。

さて、帰りのバスは買ったばかりの蒲鉾などで大酒盛りとなり、岩崎英一君の息子やその友だち未成年に、「お前たちも今から飲んで鍛えておけ」などと悪い獣医の大声がして皆で大笑い。

やがて元ブラバンのリーダーであった芹沢君のリードで、応援歌や寮歌など知っている限りの歌を全員で大合唱し、最後に日本大学校歌を斉唱しつ、全員大満足にて沼津に到着した。まだ午前十一時でありました。が、その日の午後より鈴木邦良先輩宅にて新年会。そして二次会は細田先輩経営のスナック。一日で二度オイシイ（疲れた）日となったことでした。

平成五年正月には大型バスで、大挙して応援に行きたいものです。

正月や清しき声援背にうけて

箱根路をゆく若き韋駄天 終

「三島」の思い出

津田和哉

私が三島を離れてから、半年が過ぎましたが、卒業してからこの「三島」という土地が忘れられず何度か三島を訪れています。

現在、東京で暮らしている私にとって、三島は心休まる故郷の様なところであります。

高校を卒業し「日本大学国際関係学部」に入学するまで、私は神奈川県横須賀市に住んでいました。横須賀というところは、米軍のキャンプがあり、街の中を多くのアメリカ人が歩いていることで有名で、三島よりは人通りが多く、にぎやかな街であります。日本大学国際関係学部に入学することが決まってから、三島という街を知り、そして三島と横須賀とを比べるようになりました。

三島で暮らし始めてからも、三島は夜になると商店のシャッターは早く降り、すぐ街が静かになってしまふので「田舎だなあ」と思っている三島があまり好きにはなれませんでした。

しかし三島で半年、一年と暮らすにつれて三島ののんびりしたところや人々の親切さが、とても気に入りに逆になり三島が大好きになり始めました。

三島は御存知の様に北に富士山をながめることができ、東に箱根の山や芦ノ湖、南には相模湾と駿

河湾を分けている伊豆半島がひかえていて、東西南北の観光地への表玄関となっているため、学生生活の4年間に近辺の観光地のほとんどに、手軽に行くことができました。中でも西伊豆から見える海越えの赤富士が好きでよく見に行き、昨日の様に思い出されます。

又、体育団体のゴルフ部に籍を置いていた関係で、静岡県大学ゴルフ大会で静岡・山梨のゴルフ場や夏季合宿の伊豆天城につかつゴルフ倶楽部やアルバイト先の御殿場大洋クラブなどで、富士伊豆周辺の大自然に接する機会も多かったこともその理由の一つでした。

4年になってから就職活動をして内定をもらったが、4月からの住居のことで会社側となかなか折り合いがつかなかった。勤務先は東京にあり、社宅は会社から1時間のところにあるので、そこに入居を奨められたが、私の考えは「どうせ通勤時間が1時間ならば三島から通っても1時間だから三島から通いたい」というものであった。

結局私の我ままな希望の考えは認められず三島をはなれて東京に住み始める事になってしまった。話には聞いていたが、東京の水は匂いがあり飲みたいとは思わない。それと比べると三島の水は水道の蛇口をひねれば夏でも冷たい美味

しい水が出た。4年間三島に住んでいる時は日本中それが当たり前だと思っていた。

「住めば都」とよく言うが、三島は私にとって素晴らしい都になったが、東京は都にはなりそうもな

好きなゴルフと就職

大川 正

私が商経学科を卒業し、湘南観光開発㈱に勤務してはや十ヵ月になりました。

当社は、平塚富士見CC、LGC、S明野LGCを経営し、さらに群馬県に二つのゴルフ場の開場を予定しております。私は、父の影響でゴルフを始めました。当時は就職のことなど全く頭に無く、人生二十年の中で一番つらい時でした。しかし、ゴルフにめぐりあえ、「就職するならゴルフ場がいいな」と考えました。

しかし、予想以上に社会は厳しく、毎日苦難の日々が続きました。ある日、同級生から電話があり、私だけでなく、新人社員のすべてが私と同じ苦難を受けていることを知りました。

私は在学中、学部祭実行委員の管財局を二年間勤め、華やかな他の部局に比べると、非常に地味で、ミスをする苦情ばかり受けなければならぬ部局であったのに、一年生の時は十分納得できず、二年になって再度挑戦してみました。実行委員組織の一員として働いて

い。豊かな自然ときれいな水にかこまれた三島と、国際関係学部は、ずっと先の世代にも残したいものである。

平成四年三月

国際関係学部卒業

みると、企画・立案と実践ではかなり違いがあることを、強く経験しました。又、模擬店では「焼トウモロコシ」を販売し、人気商品となり、売上げ上々の経験もしましたが、いずれも学生時代のことと甘さがあつたと感じています。でもこのような経験が役に立ち今では、仕事に慣れて充実した日々を送っています。

来年就職する後輩の方々へ、社会人の先輩としてアドバイスさせて頂くと、学生時代と社会とでは、すべての面でちがいます。学生で許されたことが社会では許されません。社会人は厳しいです。そんな時は学生時代の友人に電話などで相談してみることが良いと思います。私の上司の言葉ですが「社会人になると、入社して1ヵ月、半年、三年目に壁がある」といいます。その壁を越えることが試練であり又義務であると私は思います。最後に私でよければいつでも相談にのります。

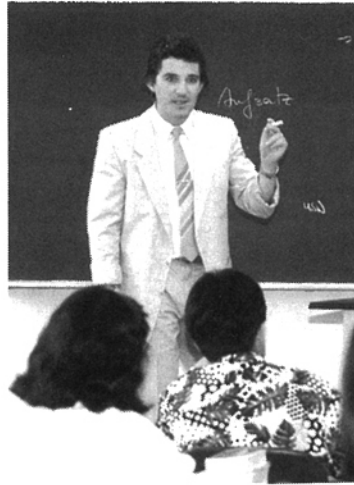
平成四年三月

短期大学部商経学科卒業

キャンパス・ガイド



生活文化学科



国際関係学部



文学科



キャンパス



商経学科

桜文会だより

第23回日本大学短期大学部文科
桜文会総会が、去る2月8日(土)午
後3時より三島市内アモール・エ
テルノ・リオにおいて開催された。
卒業試験を終了したばかりの新
入会員、卒業生約250名のほか、多
数の先生方の出席により盛大な総
会となった。

商経科同窓会総会

平成四年十月十六日(金)十八時三
十分から母校八号館二階食堂「イ
エロバード」において八十余名出



桜栄会だより

春の息吹きを身近に感じる二月
二日(月)、短期大学部家政科・生活
文化学科同窓会「桜栄会」の第二
十七回総会が、田代パレスにて開
催されました。

出席者は 穴田三島市長、宮沢



席のもと、総会が開催され、事業
報告、収支報告、役員改選等の事
項について審議された。特に役員
改選については、慎重に審議され、
全員一致により、岩崎一雄会長を
始めとする各役員は再任と決まっ
た。総会に引き続いて、懇親会が
同会場で先生方をまじえて盛大に
行われた。



同窓会会長をはじめ中島前同窓会
長、恩師の先生方、同窓生、在校
生を含め一〇四名でした。
まず平井会長の挨拶で始まり、
年間行事報告、会計報告など進め
られ、そして二期・十二期・二十
二期の方々の進行により、岩城之
徳教授を講師にむかえての講演、
親睦会では、近況報告・歌などが
盛り込まれ、和やかかつ盛大な会
となりました。最後に来年の再会
を約束して会を閉じました。
桜栄会は新入会員二五〇名を迎
え、益々大きくなってまいります。
桜栄会名簿は、現在各期幹事の方
と事務局とが中心となって作成
していますので会員皆様の御協力
をよろしくお願い致します。

